

隠岐海区便り (Vol.80)

◎第323回(第21期第14回)隠岐海区漁業調整委員会を開催しましたので、概要をお知らせします。

出席委員：葛西、前田、佐々木、吉田、亀谷、濱田、長府、福山、林委員

欠席委員：升谷委員

開催日時：令和2年3月24日(火) 14:10~16:10

開催場所：隠岐郡隠岐の島町西町 JFしまね西郷支所 3階会議室

議題

- (1) 島根県の海洋生物資源の保存及び管理に関する計画について(諮問)
 - ①スルメイカの令和2年漁期のTACの決定
 - ②クロマグロの第6管理期間のTACの決定
- (2) 水産政策の改革に伴う漁業調整規則の改正について(報告)
- (3) 水産政策の改革について(報告)
- (4) 第7次島根県栽培漁業基本計画の一部見直しについて(報告)
- (5) 2019年の島根県の漁業生産の状況について(報告)
- (6) その他

◎委員会での検討結果は次のとおりです。

(1) 島根県の海洋生物資源の保存及び管理に関する計画について(諮問)

令和2年漁期のスルメイカ、第6管理期間のクロマグロのTACについて、島根県への配分量を定めた旨が国から示され、これに伴い県の管理計画を変更することについて知事から本委員会に対して諮問がありました。

- スルメイカ：若干※
- クロマグロ：小型魚78,5トン 大型魚23,3トン

審議の結果、これらの諮問について、異議のない旨を答申することが決定されました。また第6管理期間は前期間と同様、管理量の小型魚では3%、大型魚では5%を留保枠にし、採捕停止命令発動基準を9割7分に、ガイドラインで地区別に漁獲管理目安を設定しました。そして、国の取り決めにより県の当初配分量の10%まで繰り越し可能となりました。

※「若干」…現状以上に漁獲努力量を増加させることがないようにするとともに、採捕の数量が前年の漁獲実績程度となるようにすることが必要。

(2) 水産政策の改革に伴う漁業調整規則の改正について（報告）

表題の件について県より報告がありました。主な改正点は以下の通りです。

- 知事許可漁業の許可年数は5年を基本とする。
- 短い許可期間を設ける必要のある漁業種類が想定されるため、「漁業調整のため必要な限度において、海区漁業調整委員会の意見を聴いたうえで短い有効期間を定めることができる」旨を規定する。
- 許可の種類を継続と新規の2種に分類する。継続許可漁業において、許可を継続したい場合、切り替え時に公示は不要で、適格性を有すれば引き続き許可する。
- 知事許可漁業に「あわび漁業」と「なまこ漁業」を新設する。
- 海面規則と内水面規則を一元化する。
- 電気設備の制限並びに漁船の総トン数及び馬力数の制限は、県規則から削除し、許可の制限措置又は条件等で規定する。
- 申請書の様式は県規則で定めず、県のホームページ等で示す。

(3) 水産政策の改革について（報告）

水産政策の改革に伴う海区漁業調整委員制度について県より説明がありました。

- 法改正後は全委員が知事の任命制となり、知事はあらかじめ漁業者、漁業者が組織する団体その他の関係者に対し候補者の推薦を求めるとともに、募集する必要がある。
- 事務局は、選任規定を定めたり、評価委員会を設置し、公正な選任に努めていく。
- 海区委員の役割は主に漁場の活動状況等の報告に係る意見及び利用者への指導が増加する。
- 委員構成は柔軟に決定できるが、現行の委員構成について変更希望もなく、構成を変更する必要もため、現行の構成を基本とする。
- 選挙管理委員会は廃止する。
- 県議会又はその議員が推薦を行うことは認められない。

(4) 第7次島根県栽培漁業基本計画の一部見直しについて（報告）

第7次島根県栽培漁業基本計画の一部見直しについてアンケートの調査の結果を踏まえて、以下の点を見直す旨の報告が県よりありました。

- 沿岸漁業の所得向上が期待できる魚種に転換。新たな取り組み対象種として、マナマコ、キジハタを選定し、マナマコは15mm、50,000尾を放流目標とし、キジハタは放流技術開発を目標とする。
- 現在のマダイとヒラメの放流サイズを小型化し、今後の新魚種の種苗生産の検討につ

なげる。

- 沿岸漁業の要望に対応するため、新規に栽培漁業種として導入を検討するための種苗生産や放流技術の開発について、計画中に明記する。

(5) 2019年の島根県の漁業生産の状況について（報告）

- 全体の漁獲量は平年を下回る8万トン（昨年より3万3千トン減）、生産額は平年並みの182億円（昨年より16億円減）。漁獲量の減少原因はまき網でのマアジ、サバ類、マイワシの不漁による。
- 中型まき網漁業は1船団あたりの漁獲量は平年を下回り、生産額は平年並み。
- 沖合底びき網漁業は1船団当たりの漁獲量・生産額はともに平年並み。
- 小型底びき網漁業は1隻当たりの漁獲量・生産額はともに平年並み。
- 定置網漁業の漁獲量・生産額はともに平年並み。
- 釣り・延縄の漁獲量・生産額はともに平年並み。
- いか釣りではケンサキイカは平年を下回り、スルメイカは平年を上回った。